

事業完了報告書（守口市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和6年6月3日 ～ 令和7年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること 研究テーマ：「広報・相談体制の持続的な充実、発展に向けて」
調査研究のねらい	令和2年国勢調査の結果、さつき学園に夜間学級を開設している本市および周辺各市において、多数の義務教育未修了者（未就学および最終卒業学校が小学校の者、以下同じ）の存在が明らかになっていることを踏まえ、潜在的に夜間中学を必要としている人たちに対して積極的かつ広範に情報を届け、夜間中学での学びの実現（教育機会の確保）に結びつけるため、また、入学を希望してさつき学園夜間学級（以下、本市夜間学級）にたどり着いた人々の背景や願いなどを十分に受け止め、有意義な学校生活につなげることをねらいとし、令和5年度に広報・相談体制の充実に関する取組み（調査研究）をおこない、一定の成果を得た。 しかしながら、「夜間中学のニーズ調査に係る調査研究 結果報告書」（平成29年3月31日株式会社サーベイリサーチセンター）の分析・調査総括でも指摘されているように、「そもそも夜間中学についての認知度が低いこと」「夜間中学の潜在的入学希望者に対する対応窓口が少なく、夜間中学への入学意向がある者に対する意向の把握を定期的に行う仕組みが存在していない」状況は、短期的な取り組みで解消されとは考え難く、中長期的な課題意識に立った夜間中学からの持続的、発展的な広報・相談体制の充実が、潜在的入学希望者とニーズの掘り起こし、その結果としての「教育機会の確保」の拡大には必要不可欠であるといえる。 そこで、本市夜間学級における昨年度までの研究成果を基盤としながら、その課題を踏まえた広報・相談体制の持続的な充実、発展に向けて、以下の観点に基づいた取組み（調査研究・実践）をおこなう。 ア. さつき学園は国内で唯一夜間学級を設置している公立義務教育学校であり、旧第三中学校での開設以来50年以上にわたって夜間中学を必要とする広範な地域の人々に対し、義務教育の機会を確保するための重要な存在となってきた。令和5年度在籍生徒の居住市が守口市を中心に大阪市、門真市、寝屋川市、枚方市、交野市、大東市、高槻市、吹田市、摂津市、茨木市など、広範囲に及んでいることはその証左といえる。 一方、令和2年度の国勢調査で明らかになった義務教育未修了者数は、上記地域に限っても2万人を超えており、夜間中学に対する潜在的ニーズは極めて多いと容易に推測される。同時に、これまでの研究

	に基づく実践を経てもなお、公立夜間中学の存在がそれを必要とする人々、およびその周囲にある社会全般に十分に認知されていない状況が全面的に解消されているとは考え難く、義務教育の機会を求める全ての人々に情報が十分に届かない現実が、未だに存在しているといえる。 そのような状況の克服、すなわち、中長期的な潜在的ニーズの掘り起こしのため、本市夜間学級を含む府内の夜間中学にたどり着く人々の増加に向けた効果的な広報媒体の作成、活用の方法等について、これまで培ってきた取り組みの成果（オリジナルリーフレットやフライヤー等の作成・配布、周辺各市教育委員会との連携、年に数回実施している生徒募集活動等）を継承したうえで、その持続的展開、および多角的な視点に基づく効果的・発展的な展開に向けた工夫について、検討・研究し実践を進める。 イ. 10代から90代、10か国以上の多様な年齢・国籍の生徒が継続的に在籍するという生徒実態に応じた教材等の作成や、学習指導等に関する研修等を通じた教科や日本語指導を中心とする様々な教育活動の充実にに向けた工夫・研究、さらに多様化する生徒の実態を踏まえたICT機器及び一人一台端末の効果的な活用についても研究しながら、これまで教育活動を進めてきた本市夜間学級では、生徒一人ひとりの1年間における学習の集大成として、開設以来50年以上にわたって毎年度の学年末に文集『まなび』（以下、『まなび』）を作成・配布し、夜間中学の存在を発信してきた。 この『まなび』は作成・発行した翌年度の当初から、本市各校をはじめ、交流（ウ. 参照）に訪れる学校関係者や連携する周辺各市教育委員会等の幅広い人々に随時配布することで、本市夜間学級で学ぶ人々の学びの姿や心の声を具体的に伝え広める役割、すなわち、広報媒体として大きな力を発揮していることが、昨年度までの研究・実践において明らかになっている。 その成果および意義を踏まえ、夜間中学の存在とそこで学ぶ人々の姿を発信する役割を果たしてきた『まなび』について、これまでと同様に潜在的ニーズの掘り起こしにも資する重要な広報媒体の一つとしての位置づけのもと、その継続的な作成と活用と、そのさらなる充実・発展に向けた内容構成や編集上の工夫、有効な配布の方法、配布先等の方策を検討・研究し、年度末に『まなび』（令和6年度版・第52号）を発行する。 ウ. 本市夜間学級における交流活動は、さつき学園（義務教育学校）前期・後期の児童生徒および教職員をはじめ、本市内外の小学校・中学校・高校・大学、さらに教職員研究団体や初任者等の研修など、毎年多数の学校・団体等のそれぞれの目的による交流の申し出のもと、それに応じる形で長年にわたり実施されており、交流後には極めて意義深かったとの感想等が、参加者からこれまで数多く寄せられて
--	--

	いる（令和５年度では延べ31団体、約650人の児童・生徒・学生・教職員等の人々が来校、交流した）。また、この交流活動は、ともに学ぶことを通じての他者とのコミュニケーションや、生徒の発言・発表（外国人生徒の場合は日本語での発表）、作文等への学習意欲を引き出すなど、本市夜間学級の生徒の学習活動において極めて重要な意義を有している。 上述のように内外両面において意義を有する本市夜間学級の交流活動は、教材や資料などを工夫・準備して進める授業や夜間中学に関するワークショップへの参加を通じて、市内や近隣地域の小学校・中学校等の児童生徒、および教職員・保護者等に対する夜間中学への理解や認識の深まりを促し、さらに交流参加者の周囲に位置する人々にも夜間中学に関する認識を広めることにつながっていることが、昨年度までの研究と実践からも明らかになっている。 すなわち、本市夜間学級の特色である交流活動そのものが、未来の日本社会を形成していく学齢期の児童・生徒をはじめ、数多くの人々に対して夜間中学に関する情報発信及び広報機能を備えた重要な機会となっており、地域的のみならず時間的な広がりをも有する潜在的ニーズの掘り起こしにつながる活動にもなっていることから、その活動の一層の充実について検討・研究したうえ、より意義ある教育活動として継続的・発展的に実践し、夜間中学の存在を地域社会に広く発信していく。 エ. 外国人による入学等の問い合わせや、体験入学時及び入学済みの外国人生徒の生活や学習上の課題や悩み等に対応するため、昨年度の取り組みとして、定期的または適時、通訳者を交えた「入学・学校生活等に関する相談会」を開催した。そのことにより、一人ひとりの外国人入学者等に対する通訳者を介した母語等でのコミュニケーション、それを通じた学校に関する丁寧な説明、学びや生活についての状況把握、継続的なケア・支援に結びつく相談体制の構築を一定程度図ることができた。その結果、通訳者を交えた「入学・学校生活等に関する相談会」の研究・実践が、学びの前提となる夜間中学への理解、それを土台とした教育機会の確保、およびその後における持続可能な学校生活とその充実、さらにその基盤となる社会生活の安定に資することが、これまで以上に明らかとなった。 そこで、昨年度の研究・実践から得られた成果（知見）について今年度も継承・活用しながら、さらに充実した相談体制を探求し、夜間中学を必要とする人たちの教育機会の確保、学びの充実を継続的・発展的に図ると同時に、相談機会（窓口）の周知・広報など、夜間中学の潜在的入学希望者に対しての対応窓口が少ないという現状（課題）にも対応する、実践的な研究を進める。
調査研究の成果	○対象経費については、事業計画書における委託経費積算見込内訳の番号の通り。

【 調査研究ねらい ア について 】（経費④）

公立夜間中学の存在がそれを必要とする数多くの人々、およびその周囲にいる人たちや社会全般に十分に認知されているとはいいい難く、義務教育を受ける機会を求めるすべての人々に情報が十分に届いていない状況が未だに存在している。こういった状況の克服をめざし、潜在的ニーズの掘り起こしと夜間中学にたどり着く人々の増加に向け、これまで培ってきた取組みの成果を継承したうえ、その持続的展開、および多角的な視点に基づく効果的・発展的な展開に向けた工夫について、次のような研究・実践をおこなった。

・昨年度初めて組織した「広報委員会」の機能を強化し、5月から8月にかけて月2回程度開催し、これまでの研究成果として貴重な財産となっている広報媒体（ポスター、フライヤー、リーフレット、カード）について、より効果的な内容になるよう検討・研究と作成をおこなうと同時に、ホームページ等との有機的つながり、市広報誌や学校運営協議会を通じた情報発信、周辺教育委員会との連携、校内の他組織との連携等を継承、強化したうえ、SNSの活用を視野に入れながら、それらを通じた夜間中学の存在や活動の様子をより広く周知するためのより効果的な方法、実践の方策について検討・研究した。

・6月から3月にかけて、「広報委員会」が企画した方策にもとづき、広報媒体としての位置づけをしている文集『まなび』（2023年度第51号）やその他作成した広報媒体等を活用して、潜在的ニーズの掘り起こしと夜間中学にたどり着く人々の増加に向けた取り組みを、成果や課題について随時再検討しながら進めた。

その結果として、次のような企画・研究と実践による成果を得た。

i) 昨年度に二次元コードによって有機的なつながりをもたせたポスター・フライヤー・リーフレット（学校案内）・カード、学校ホームページ

に加え、今年度新たに開設したInstagramの二次元コードをポスター・フライヤー等に掲載することにより、広範囲に及ぶ情報周知の機能強化を図ることができた。

ii) 「広報委員会」を検討・企画の場として、Instagramの内容について情報・視聴覚担当者との連携し、その内容を随時更新・充実させることで、夜間中学を必要とする人たちに、本学級における学

	校生活の様子をより具体的に伝える環境を整えることができた。 iii) さつき学園校区に住む人々や市内全域に夜間中学の存在をより広く周知するため、昨年度に引き続き市広報誌や学校運営協議会を通じて「広報委員会」で企画及び情報発信することとした。市広報誌における「さつき夜間特集記事」などの掲載内容を通じて、夜間中学の紹介や入学案内についての広報を充実させ、より一層広範囲への情報発信を実現することができた。その際、これまで作成してきた広報媒体の内容も有効に活用した。 iv) 長年にわたり実践している生徒会活動による学校独自の年3回から4回の「生徒募集活動」と連動させ、作成した広報媒体のポスティングや市内各所のコミュニティーセンターへの配置依頼をおこなうことにより、市内外でのその継続的な配布・配置を実践することができた。また、周辺各市教育委員会との連携についても、これまでの関係性を基盤として、リーフレットやフライヤーなどの配布数の増加、配置場所の工夫等、直接訪問して依頼すると同時に、各市の広報誌における入学案内の掲載依頼を行う等、取組みを強化し、夜間中学の重要性に対する認識と具体的協力の深化を図ることができた。 v) 「広報委員会」と後述の「文集委員会」、および交流活動との連携（それによる企画）を一層強化することで、広報活動の工夫、広がりを実現させることができた。（具体的には後述） ・夜間中学に対する潜在的ニーズは極めて多く、夜間中学での学びを必要とする人々に対し、未だ十分に情報が届いていない状況は依然として残されていると予測される。上記の研究と実践および成果については、継続的な実施、工夫及び改善による深化・発展が今後も必要不可欠と思われる。また、その一環として、これまでの研究と実践で確認している情報の広がりによって一定の時間を要するという性質を補うべく、今年度に着手したInstagram等のSNSの活用について、個人情報取り扱いに留意しながらより積極的に発信し、その内容についてより効果的なものにしていくことなど、現代社会の実情を踏まえた広報活動のあり方についても、持続的、発展的に研究していく必要がある。
--	--

【調査研究ねらい イ について】（経費③）

生徒一人ひとりの１年間にける学びの集大成であるのみならず、夜間中学の存在とそこで学ぶ多様な年齢・国籍の生徒の姿と心の声を具体的に伝え広める役割、すなわち、広報媒体として大きな力を発揮していることが、昨年度までの研究・実践において明らかになっている文集『まなび』（以下、『まなび』）について、これまでと同様に潜在的ニーズの掘り起こしにも資する重要な広報媒体の一つとして位置づけ、その継続的な作成と活用とさらなる充実・発展に向けて、次のような研究・実践をおこなった。

・昨年度立ち上げた「文集委員会」の機能を強化して、５月から９月に月に２回程度を開催し、潜在的ニーズの掘り起こしに資する構成や編集上の工夫、より効果的な配布方法、配布先等の観点から『まなび』について検討・研究し、その方針を定める。その際、「研究のねらい ア」に記す「広報委員会」との連携を重視する。

・９月から３月にかけて「文集委員会」で定めた方針に基づき、生徒一人ひとりの年間の学びのまとめを含む原稿等の準備、作成作業を随時進めることで、『まなび』（第52号）を完成・発行する。

その結果として、次のような企画・研究と実践による成果を得た。

i) 本学級は令和５年度で開設50周年を迎えたことから、昨年度の『まなび』（第51号）については、構成・編集上の工夫をおこなったうえ、開設50周年記念号として年度末に発行した。今年度においても、さまざまな境遇と意思をもった多くの生徒の姿を読者に伝えると同時に、現在の学校生活の様子等を具体的に発信するという方針のもと、昨年度の成果を活かした構成・編集上の工夫を施したうえで作成作業をすすめ、計画どおり年度末に『まなび』（第52号）を発行することができた。

ii) 『まなび』（第52号）を完成させることで、年度末から次年度当初以降に、夜間中学の存在と活動の様子、そこで学ぶ人々の姿を広く内外に発信するための有意義な素材を用意することができた。

iii) 「広報委員会」における取組み方針と連動させ、交流活動の下見や打ち合わせ、あるいは参観等に来る学校関係者や行政関係者、研究者等に可能なかぎり『まなび』（昨年３月発行の開設記念号・第51

号)を配布することで、幅広い人たちに対して、それぞれの立場での活用を通じた夜間中学の存在の周知、および理解の深まりに結びつく素材の広範囲に及ぶ提供を図ることができた。

また、今年度は周辺各市教育委員会との連携による広報充実の一環として、本市のみならず周辺6市(北河内地区)のすべての中学校へ『まなび』(第51号)の配布を実現した。加えて、交流校等への聞き取りにより、配布先の中学校において回覧等が行われ、より多くの教職員へ周知されるとともに、交流する際の教職員等の事前研究等にも活用されるという実績を得た。

・十分に義務教育を受ける機会が得られなかった人たちの周囲にいる人々や社会に対する夜間中学への理解の広がりや深まり、それを基礎とした夜間中学を必要とする人たちのニーズの掘り起こしには、そこで学んでいる生徒の具体的な姿や境遇の周知が欠かせない。本市夜間学級における学びを中心とした生徒の姿が表現されている文集『まなび』は、生徒一人ひとりの学びの集大成であると同時に、広報媒体としての役割を十分にもち、中長期的な課題意識に基づいた夜間中学からの持続的、発展的な広報の充実による潜在的入学希望者とニーズの掘り起こしに資するべく、今後も『まなび』に関する取組みとその充実・発展の工夫を、継続的に進めていく必要がある。

【調査研究ねらい ウ について】(経費②)

本学級の特色である交流活動の取組みは、未来の日本社会を形成していく学齢期の児童・生徒をはじめ、教職員や保護者等、数多くの人々に対して理解や認識の深まり、広まりを促す夜間中学に関する情報発信および広報機能を備えた重要な機会となっており、地域的のみならず時間的な広がりをも有する潜在的ニーズの掘り起こしに結びつく活動になっていることが、昨年度までの研究と実践からも明らかになっている。そのことから、夜間中学の存在を地域社会と将来世代に発信していく交流活動の継続的な実施とより一層の充実、発展について、次のような研究・実践をおこなった。

・新たに「交流推進委員会」を組織し、これまでの取組みにおける経緯や成果を持続的に継承・発展させていく体制を整備したうえ、それを基盤とする交流活動の一層の充実についても検討、研究し、学びの深まりと広がりを柱とした今年度の方針を定める。

	・さまざまな学校、団体等からの交流（訪問交流を含む）の申し入れを受け、策定した方針を踏まえた「交流推進委員会」による日程の調整、およびその目的を応じた活動（授業参加やワークショップ等）の持ち方についての検討、研究を随時進める。 ・来校する多数の人々に対する効果的な情報発信・広報機会となる資料や教材等について、「交流推進委員会」を中心に検討・研究を重ねたうえで作成し、すべての教職員により具体的な交流活動の実践を進める。 ・意義ある交流活動の継続的な実施のもと、交流相手側との協力関係構築により、交流後におけるそれぞれの地域での情報発信の取り組みの継承・充実に結びつくよう実践を進める。 その結果として、次のような企画・研究と実践による成果を得た。 i) 5月から2月まで間、市内外の小学校・中学校・高校・大学、および教職員研究団体等からあった交流の申し入れについては、すべて引き受けるという基本方針のもと、今年度においては延べ32の学校・団体、540人との交流活動を実施することができた。 ii) 交流相手との事前打ち合わせを十分におこなうことにより（必要に応じた事前参観を含む）、交流の目的・学年・人数などについてきめ細かに把握したうえ、その内容に応じたワークショップや授業参加等を検討し、企画・提案することにより、交流参加者にとって意義ある交流活動（交流後の感想等による）を実施することができた。 iii) ワークショップにおいて、国籍や年齢の異なるさまざまな境遇にある10人前後の生徒が、自らの生い立ちや思いを綴った作文を読む（聞く）活動を継続的に組み込むことで、交流相手（引率者等含む）の夜間中学への理解をより一層深めることができた。 iv) 「広報委員会」との連携のもと、作成したリーフレットを来校者すべてに配布すると同時に、意義ある交流活動の実施を基礎に交流相手側と関係性を深めることによって、それぞれの地域での交流後における情報発信の実施に向けた基礎的条件を継承することができた。 ・『まなび』同様に、学んでいる生徒の具体的な姿や境遇と直接触れ合う交流活動が、十分に義務教育を受ける機会を得られなかった人
--	---

	たちの存在や夜間中学の様子を広く周知する広報機能を有していることは、交流参加者の様子やその後の感想、取り組みなどから明らかである。すなわち、本市夜間学級で学ぶ生徒への教育的意義はもちろんのこと、本市内外の小・中・高校生、大学生や、経験の浅い教職員等、これから社会を形成していく人々との交流活動が、広報機能の地域的な広がりと同時に、時間的な広がりをもたらすことは、今後も継続的に期待される。交流活動は、中長期的な課題意識に立った持続的、発展的な広報の充実による潜在的入学希望者とニーズの掘り起こしという観点においても、本市夜間学級として継続的に取り組むべき重要な活動と位置づけられる。 【調査研究ねらい エ について】（経費①） 近年の日本社会の状況を反映した多様な国・地域の人々による入学希望や問い合わせ、体験入学、および入学済みの外国人生徒の生活や学習上の課題や悩み等に対応するため、昨年度の取り組みとして定期的または適時、通訳者を交えた「入学・学校生活等に関する相談会」を実施したことにより、次の点に資する相談体制の構築を図ることができた。 ①一人ひとりの外国人入学希望者等に対する通訳者を介した母語等でのコミュニケーション ②それを通じた日本の学校に関する丁寧な説明 ③入学後にける学びや生活についての状況把握、および継続的なケア・支援 その結果、通訳者を交えた「入学・学校生活等に関する相談会」の研究・実践が、学びの前提となる夜間中学への理解、それを土台とした教育機会の確保、およびその後における持続可能な学校生活とその充実、さらにその基盤となる社会生活の安定に資することが、これまで以上に明らかとなった。 今年度においても、これまでの研究・実践から得られた知見について継承・活用し、さらに充実した相談体制の探求、それによる夜間中学を必要とする人たちの教育機会の確保、学びの充実を継続的・発展的に図ると同時に、相談機会（窓口）の周知・広報など、夜間中学の潜在的入学希望者に対しての対応窓口が少ないという現状（課題）にも対応する、実践を検討・研究し、展開した。 ・複数言語の通訳者を確保した相談体制として、6月から2月にか
--	--

	けて、通訳を交えた定期的または適時の「入学・学校生活等に関する相談会」を開催した（延べ回数24回）。 ・電話での入学問い合わせや、入学後における随時の相談希望があった場合には、入学希望者や入学済み生徒のニーズに即時に対応できるよう、校内における柔軟かつ機動的な相談体制の構築（相談窓口の設定）をおこなった。 ・「広報委員会」との連携により、学校において随時相談が可能であることについて、リーフレットやフライヤー、インスタグラムを通じて情報が届くよう、記載内容の工夫を試みた。 その結果として、次のような企画・研究と実践による成果を得た。 i) 通訳者を介した定期的または適時の、および柔軟かつ機動的な常時の校内相談体制を構築することにより、入学を希望する外国人への安心感を醸成し、当該外国人の過去・現在における学習や生活・進路等に関する経緯や状況、日本で生きていくことに関する当面の願い（ニーズ）などについて、より詳細に把握することが可能となった。 ii) 入学希望者に対して、入学・学びの前提となる日本の学校制度と夜間中学について丁寧に説明することにより、義務教育の中学校としての夜間中学の意味や、高校進学等の進路に関する制度、夜間中学の位置づけ等について、これまで以上に理解を得ることができた。 iii) 前述の i) ii) を通じて入学に至った生徒については、その後の学び、およびその支援に関わる前提条件をより一層整えることに結びついた。 iv) 外国人生徒の入学後の学習や学校生活、進路、日常生活等に関する課題や悩み等について、これまで以上にきめ細かく把握し、それぞれに応じた支援をおこなうことが、より一層可能となった。 v) 上記の諸点を踏まえ、一人ひとりの外国人入学者等に対する通訳者を介した母語等でのコミュニケーションを通じた丁寧な説明、学びや生活についての状況把握、きめ細かく丁寧な相談体制の構築と継続的な支援が、学びの前提となる夜間中学への理解、それを土台とした教育機会の確保、その後における持続可能な学校生活とその充実、さらにその基盤となる社会生活の安定に繋がっていることが分かった。
--	---

	VI) 入学希望者等のニーズ（相談希望）に即時に対応できるよう、校内における柔軟かつ機動的な相談体制（相談窓口）を設定するとともに、広報媒体において「随時相談が可能」であるとの情報を記載することにより、夜間中学の潜在的入学希望者等に対する相談等の窓口が少ないという課題についても、一定の対応を図ることができた。 ・ 入学希望者等に対する相談体制および相談機会（窓口）の周知・広報、具体的対応の充実については、入学希望者が多様化する現在、これまでの研究・実践から得られた知見を継承・活用し、さらなる研究を通じた探求と実践の積み重ねが重要といえる。夜間中学を必要とする人たちへの相談体制の構築、教育機会の確保、学びの充実を今後も持続的、発展的に図ることが必要不可欠である。
--	--